

青工研かわら版 10月号 vol.1



第1ブロック 第7回 ブロック会

テーマ **喜びの探究！6～経営数字と目標・行動を結びつける～**

開催日 2022年10月17日
時間 19:30～21:40
開催場所 あじさい会館
担当者① 高橋健太郎（有限会社林プロパン商会）
<http://www.hayashi-lpg.com/>
担当者② 柴田英児（有限会社柴田製作所）
<http://shibata-s.jp/>

両担当者（企画者）の課題

担当者（企画者）2人は、日頃から経営にまつわる数字についての理解力が不足している事と社員に対し、どこまでアクションプランを落とし込んで良いのか分からないという課題を抱えていました。



未来を読み取って作成したファイナンシャルプランに基づいて必要なアクションプランを指し示す能力と、そのアクションプランを組織として実際の行動へと昇華させる事も必要だと考えていました。

ブロック会の目的と手法

本ブロック会では、数字が苦手な担当者（企画者）柴田と、社員にどこまで伝えて良いのか迷いのある担当者（企画者）高橋とが、一緒にファイナンシャルプランとアクションプランを作成する事で、柴田の苦手な数字の克服と高橋の社員への伝達の迷いをなくす事を目的に実施しました。



ファイナンシャルプランの発表と討議

担当者（企画者）②柴田英児

自社の抱えるリスクや今後の展開などを解説した後にブロック員からの質疑応答がありました。

ブロック員からは、何の為に自社の数字を分析したのか、具体的な目標がない、などの意見が出ました。



担当者（企画者）① 高橋健太郎

作成した自社のファイナンシャルプランについて、社員と共有したい事の発表や、自社のプランと比較し、ブロック員に対し、どの様にプランを組んでいるか、どこまで落とし込んでいるかの討議がありました。

ブロック員からは「自社のプランの考え方やどこまでの役職へ共有しているか、数値をどこまで伝えているか」等の意見が出ました。

ブロック会での担当者まとめ 宣言内容

担当者（企画者）柴田からは、今後具体的な目標を定めて、ファイナンシャルプランを引き続きブラッシュアップしていく事、担当者（企画者）高橋からは柴田のファイナンシャルプランのブラッシュアップを今後も手伝う事、今回得られた各社のファイナンシャルプランへの考え方を自社へ落とし込んで行くと宣言し、ブロック会は終了となりました。

担当者（企画者）からブロック会を終えて

担当者（企画者）① 柴田英児

自身の苦手としてきた数字と向き合い、ファイナンシャルプランを作成し、プランが作れた事に満足していましたが、討議の中でご指摘頂いた、一番大切な何の為に、抜けておりました。作成する事が目的となってしまう本質が抜けていた事を深く反省し、今後の活動に繋げて行きたいと思います。

今後について、目的を明確にしたファイナンシャルプランを作成し、ブロック会にご参加頂いた皆さまに展開させていただきます。また、作る事だけで満足せずに日々数字を追いかけて行きます。



担当者（企画者）② 高橋健太郎

経理は表の作成と決算報告で通常は完了します。ファイナンシャルプランは作成後にその内容、特に狙ったアップサイドが現実の数字となるように活動する事、つまりアクションプランの実施と成功が無くては意味がありません。この点をペアが理解していなかった事に自身の反省点があると感じました。

今後について、自社については、今回頂いた他社の方法や考え方を参考に引き続き未来の数字作りを継続する考えです。また、青工研として卒業までにはどのメンバーも最低限これができるようになるべきと考えますので、今回のペアに限らず話をして行こうと思います。



記者としての感想

記者：野田剛弘

今回のブロック会にて、今まで苦手として避けてきた事をファイナンシャルプランとして数字に落とし込み、現実を把握する事については、非常に良かったと思いました。

ブロック内においても、各社様々な考え方があり、数字について社員への共有する幅も様々でした。今回の経験を経て、現実を理解した上で、未来に向けたファイナンシャルプランを達成することで、自社やお客様への喜びの探究に近づいて行けると感じました。